

## ご 挨拶



全国油脂販売業者連合会  
会 長 宇田川 公喜

令和3年の全油販連 NEWS 第1号の発行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

季節は早いもので3月となります。

昨年はまさしく、新型コロナウイルスに翻弄された1年となりました。政府によるG o T o キャンペーンの効果もあって昨年9月以降、11月前半まで外食、観光産業は回復傾向をたどったものの、11月後半の3連休を境に感染者が再拡大。コロナ第3波の様相を呈し、越年しました。

年明け後、11都府県に再び緊急事態宣言が発令され、当初の1カ月間から、栃木を除きさらに1カ月延長されることになりました。一方で、国内においても2月17日から、まずは医療従事者からワクチン接種が始まりました。今後、順調に接種が進み、コロナが収束することを願うばかりです。

外食をはじめとする業務用ユーザーの苦境が続く中、製油業界を取り巻く環境は原料相場の暴騰で、年明け後は一段と厳しい状況となっております。シカゴ大豆は一時、14ドル超えまで値を上げ、6年半ぶりの高値をつけました。また、カナダ菜種は先物相場が700カナダドル超えと約13年ぶり、パーム油もマレーシア先物期近は年明け後4000リンギ台をつけ、10年ぶりの高値に上昇しました。こうした事態を受けて、製油メーカー各社は1月後半から相次いで値上げを発表。キロ20～30円、業務用斗缶におきましては缶当たり300円～500円以上の値上げ幅でこの春から、価格改定を実施するとのこと。コロナ禍で飲食店向けの需要は大きく減退しており、かつてない厳しい状況下に置かれております。

一方で、足下の原料価格を鑑みますと、今回の価格改定の発表には、メーカー各社の強い危機感が表れているものと推察致します。東京におきましては、日々のコロナ感染者数は着実に減少傾向をたどっており、このまま収束に向かい、そして、どのような形になるかはわかりませんが、延期された東京オリンピック・パラリンピックが無事開催され、外食産業が回復していくことを願ってやみません。

まだまだ不安の真ただ中ではありますが、それでも油脂販売業者として、やるべきことをやり、前に進んでいきたいと思っております。

今後とも全油販連の活動に対しましてご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。